

平成28年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 早鞆 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 数学)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

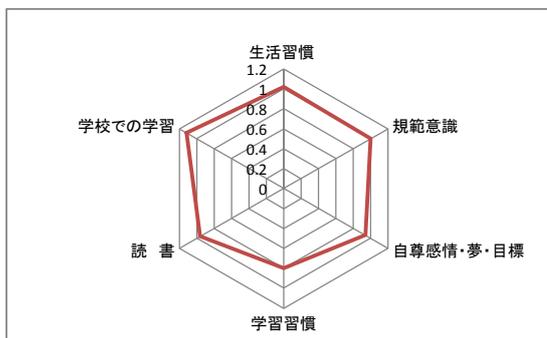
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.3	74	5.8	64	21.2	59	6.1	41
全国	25.0	76	6.0	67	22.4	62	6.6	44

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率をやや下回っていたが、説明を読み、選択肢から正解を選ぶ問題についてはできていた。 ・文章を読み、与えられた条件に沿って、自分の考えを明確に書くことを習慣化する必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	話の中心的な部分と付加的な部分との関係を読み取る問題は正答率が高い。	
	努力が必要な問題	文章中の言葉の意味を選択したり、条件に沿って書く問題は正答率が低い。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率を下回っていたが、選択問題の無回答率はすべて0%であった。 ・文章の展開を読み取ったり、目的に応じて明確に書いたりする問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	文章の構成を捉えて読み取る問題は正答率が高い。	
	努力が必要な問題	物語の展開に沿って、登場人物の様子を並べ替える問題は正答率が低い。	
数学A	全体的な傾向や特徴など	・全国正答率を下回っており、一次関数の変域に関する問題が特に無回答率が高く、誤答も多かった。関数に苦手意識を持っている。 ・等式変形や基本的な問題についての正答が悪い。基礎的な計算能力の向上の必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	図形や立体に関する問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	一次関数の変域に関する問題が特に無回答率が高く、誤答も多かった。	
数学B	全体的な傾向や特徴など	・全国正答率を下回っており、長い文章から計算式を導き出す問題が無回答率が高く、誤答も多かった。 ・図形についての理解度がやや高い傾向にある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	図形に関する問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	求めるものを文字において、数量の関係を方程式で解く問題の正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の時間が全体的に少なかった。家庭学習の指導の工夫が必要である。 ・将来の夢や目標を持っている生徒が、減っていた。それぞれの夢を持たせるような活動に取り組んでいく必要がある。 ・テレビ等に費やす時間が増えていた。特に4時間以上の生徒の割合が多かった。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 授業では、「めあて」「まとめ」を行うことが定着してきた。今後は、「話し合う活動」や「書く活動」も積極的に取り入れていきたい。
- 朝自習や定期考査前の予想問題作成、放課後質問教室等も継続して行う。
- アシストシート、活用力をたかめるワーク等を活用していく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 家庭学習が全体的に少なかったため、家庭学習の定着を図るため、毎日の課題を行う。
- 家庭学習チャレンジハンドブックを活用していく。

○学校だよりや学校ホームページなどを利用して、全国学力・学習状況調査の課題と取組を保護者へ周知し、家庭と連携して協力体制を整える。